

寺報

平成三十年十一月
第八十一号

正念寺護持会発行

常陸太田市久米町二十一

電話 〇二九四一七六一二〇五八

FAX 〇二九四一七六一〇一六九

山陰の妙好人

妙好人と呼ばれる人々がいらつしやいます。妙好人とは、一般在家の人のうち、浄土真宗の篤信者の人を指す言葉です。この方々は、話された言葉や行動などにより、周りの人々から尊敬された人々とも言えます。

「妙好人」と呼ばれる方々は、過去に沢山いらつしやったようで、江戸時代に出版された「妙好人伝」には、百五十人以上の方々の名前があつたそうです。また、江戸時代だけに限らず、明治・大正・昭和、また現代にも「妙好人」と呼ばれる方はいらつしやいます。

その中でもとくに有名な妙好人と言いますと、「赤尾の道宗」「因幡の源左」「石見の才市」「有福の善太郎」「讃岐の庄松」「六連島のお軽」などの方々です。このうち、源佐さん・才市さん・善太郎さんの三人の方々のお話を聞きに山陰へ行って参りました。

住職仲間四人で、茨城空港から神戸空港へ向かい、三ノ宮でレンタカーを借りて鳥取へ向かいました。途中「鳥取砂丘」を見学して源佐さんの檀那寺「願正寺」さんへ参拝し御住職から源佐さんのお話を聞かせて戴きました。源佐さんは、江戸後期の天保年間に誕生し、十八歳の時に父と死別。この時父から言われた「親様を頼め」という遺言を受け、お寺に参り聴聞を始めたと言われております。



源佐さんの写真と像

そして、或る時牛を連れて草刈りに山に出かけ、沢山の草の束を牛に担がせ、自分では一束持つて山を下りてきたそうですが、その一束が重くなつてきて、それも牛に担がせたときに、「阿弥陀仏」に全てを任せれば良いという気付きから「信心」を戴いたと言われております。

才市さんは、若い頃は船大工をしており、晩年は下駄職人をしていました。才市さんは、昭和十二年に亡くなつていますが、彼は法話を聞いては聞いたことを手近にあつたカンナ屑などに書き留めたりしていました。才市さんが書いたそれは、「口あい」と呼ばれる詩で、後にノートに清書され、その数は七冊にもなり、一万首程あつたと言われています。しかしその多くは、戦争で焼失してしまい、現在残っているのは、四千首ほどです。その口あいを讀んだ「北原白秋」は、「こんな歌は私には作れないなあ」と言つたともいわれてます。

善太郎さんは、四歳で母親と死別したこともあり、若い頃は荒んだ生活を送り、「毛虫の悪太郎」と言われるほど嫌われていたそうですが、三十歳から四十一歳にかけて愛児四人を次々に失うと言う深い悲しみに出会い、四十五歳頃から命がけで仏法を求めようになりました。何でも無い毎日の当たり前のことにも「初事」と受け止め、うれしやと悦ばれたそうです。次のような詩が残されています。



善太郎さんの像

「やれやれうれしや有難や 生々世々の初事に わたしや全体悪太郎であるけども おかげでこの善太郎というてもらう やれうれしや この善太郎」
妙好人は単に篤い念仏者ではありません。他力を理解し、阿弥陀仏との一体感を味わつたので、衆生一切を撰取する阿弥陀仏の慈悲に完全に帰依している方を言います。



才市さんの住んだ家

寺院巡り旅行のご案内

来年の寺院巡りは、鎌倉方面に行くことにいたします。初日、横浜中華街で昼食をとって戴きながら、茅ヶ崎市にある「来恩寺」さんに参拝。こちらの御住職には、前住職が元気な頃に、当寺の報恩講にご出講戴き、法話のご縁を持って戴いたことがあります。ハワイ開教の経験もあり、良い意味でお寺さんらしくないお寺さんです。

その後箱根へ向かい、温泉に入ってゆつくりと日頃の疲れを癒やしていただいて一泊。二日目に鎌倉に向かい、藤沢駅から「江ノ電」に乗り、長谷寺へ向かいアジサイを愛でていただき、その後鎌倉駅まで再度「江ノ電」に乗って向かいます。鎌倉駅で「江ノ電」を降りたら、小町通りを散策しながら、バスの待つ駐車場までブラブラと歩いて、帰路につきます。



日程 六月十七日(月)～十八日(火)
 会費 三万円程度
 宿泊 箱根湯本温泉 天成園(予定)
 参拝寺院 来恩寺



グラウンドゴルフ正念寺杯のご案内

来年も「グラウンドゴルフ 正念寺杯」を行います。今年も、最初に二月で予定したら雪の関係で延期になったこともあり、二回目の今回は、三月に予定しました。是非沢山の方々のご参加をお待ちしております。

日時 三月二十六日(火曜) 午前九時 正念寺集合
 場所 大方運動広場
 参加費 一千円

終わった後に、みんなで食事をして解散します。



お寺でライブ?

第二回目の『お寺でライブ?』、今回も天下井朱美さんをお呼びしまして、『花祭りコンサート』として行うことになりました。どんなステージになるか、どうぞお楽しみください。

四月六日(土)



七夕コンサートより

初参り



片岡美亜ちゃん
片岡龍也さん 片岡美紀さん

お寺に初めてきたお子様の写真を撮って紹介させていた
ております。皆さんのお子様・お孫様を是非この欄で紹介さ
せてください。



仏具お磨きの様子

報恩講も近づき、聞法会員の皆さままで仏具のお磨きをしていただ
きました。

今日は、天気も良く風も無かったので、暖かいうちに終わりました。お陰さまで、お仏具もピカピカになり、気持ちよく報恩講をお
迎えできます。



妙好人 才市の言葉

名号はわしが称えるじゃない
わしに響いてなむあみだぶつ

如来さんはどこにおる
如来さんはここにおる
才市が心に満ち満ちて
なむあみだぶつを申しているよ

念仏は仏の念仏
仏が申す念仏
ただの念仏
わたしゃ用なし
ご恩嬉しやなむあみだぶつ

感謝録

ご寄付を戴きました事に感謝を込めてご報告させて戴きます。

一、妻の永代経として

金 貳拾五万円

池崎 正夫様

一、父の永代経として

金 貳拾万円

萩野谷 均様

今年も沢山のお仏供米をご奉納戴きました。

ここに謹んでご報告させて頂きます。

十一月九日現在

常陸太田市

常陸大宮市

那珂市

関 守様
仲村 義信様
平山 昌邦様

會澤 宏様
浅川 和則様

樫村 一洋様
樫村 欣也様

樫村 勤様
小澤 利弘様

萩野谷 喜一様
萩野谷 定之様

箕川 峻様
箕川 庄造様

吉澤 国裕様
吉澤 美佐男様

坪井 誠様

ご奉納戴きましたお仏供米は大切に使用させて頂きます。

その他、報恩講法要や永代経法要に際し、また平日頃から農業をされている方々から、いろいろな野菜などのご奉納も戴いております。ここに報告を申し上げます。

住職雑感

先月山陰地方に三人の妙好人に会いに出かけました。と言っても、皆さんすでにお浄土に還られた方々ばかりですが。

初日は、鳥取県の願正寺さんにお参りして、御住職より「源佐さん」のお話を聞きました。二日目は、「才市さん」の生家を見学し、次に「善太郎さん」の菩提寺「浄光寺」さんと師匠寺の光現寺さんへお参り。それぞれのお寺でいろいろとお話を聞かせていただきました。

そうしたら、浄光寺の前住職さんが、私の友人のいとこだったり、その息子さん(現住職)が、私の友人の娘さんと同窓だったり、意外な繋がりがありました。

仏教では、「縁」を大切にしますが、どこにどんな「縁」があるか、本当にわからないものです。私の生命が、今ここにあるには、当然両親がいたからであり、その両親にも両親がいて、そう計算していくと二十七代前に遡ると、計算上は現在の日本の人口を超えるだけの先祖の数になります。

それだけ沢山の「縁」に支えられての現在の私の存在だと考えると、私一人のためだけに働きの働きがあったのか。有り難い事だと改めて考えさせられます。